

問題校則（いわゆるブラック校則）および不適切指導に関する調査 (6) 質的調査 (C、D)

ブラック校則をなくそう！プロジェクトチーム
(文責：増原裕子)

(6) 質的調査 (C、D)

【性的マイノリティと校則（とくに性自認・性表現に関する学校での困難）】

LGBT（※性的マイノリティの総称）の中でも、トランスジェンダーや X ジェンダーなど性自認・性表現に関するマイノリティの生徒が学校生活で抱える困難の背景に、校則が関係している事例調査を行っている。

なお LGBT の中でも、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアルなど性的指向に関するマイノリティと校則については、事前ヒアリングで大きな関連性が見えなかったため、今回の事例調査ではスコープ外としている。

1 性自認・性表現に関するマイノリティの、現役高校生の校則に関連する事例
性自認・性表現に関するマイノリティの生徒が学校生活や校則についてどのような経験をし、どのような思いを抱いているか。インタビュー調査の事例を紹介する。

《事例 1》

- ・現在の年齢と所属：17 歳、定時制高校 2 年生（夜間）
- ・セクシュアリティ：性自認についての悩み、揺れ（※生まれの性別は女性）
- ・校則などでの困難の体験：

小学校に制服があった。性別の違和感があり、5 年生のときに制服について考え出した。先生に聞いても「そういう決まりだから」という答えで納得できなかった。

中学校では制服に加えて、男女別の着替えに苦痛を感じ、「女子生徒」として扱われることが嫌だった。

中学 1 年の途中から 3 年の初め頃まで不登校に。理由は制服と、おそらく学校生活が原因の体調不良。自傷もしていて、自傷理由について体育の先生に聞かれたときに制服のことも話していて、先生からは「男になりたいの？ それだったら辛いんだろうけど、そうじゃないなら良かった」「決まりだから受け入れろ」と言われた。

改善につながるきっかけは、中 3 の修学旅行。「スカートで観光地に行くのがイヤだ。スカートだったら修学旅行に行かない」と言ったら、担任がズボンで行くことを認めてくれて、とても安心した気持ちになった。

不登校の時期が長く、成績の問題で行ける高校は少なかったが、全く制服がないのが今の定時制だけで、もうここしかないと思ってすぐに決めた。今は制服も校則も全くないのでだいぶ楽。トランスジェンダーの子も学校に多い。ただ、学校の選択肢は本当はもう少しほしかった。

男女分けに関わらず、もっと学校の対応に柔軟さがあってほしかったと思う。修学旅行のときのズボンはそういうふうを受け入れてもらえた初めての経験。もっと早ければ、もうちょっと普通に学校に行けていたかもしれない。制服が選択制になっていれば、もちろん少し助けになる。男女別しか選択肢がないから大変だった。

《事例 2》

- ・現在の年齢と所属：17 歳、海外留学中の高校 1 年生
- ・セクシュアリティ：X ジェンダー（※生まれの性別は女性）
- ・校則などでの困難の体験：

性別の違和感は小学校 6 年生頃から。小 6 の修学旅行でみんなと一緒に風呂に入ったら、どーっと鼻血が出た。自分でも驚いたが、そのあたりからなんでだろうと思い始めた。とくに性別のことを意識していたわけではないが、身体に反応が出たのかもしれない。自分の感覚としては、60%が女子、40%が男子。

中学と日本での高校生活は制服があり、私服でスカートを履くことはないが、制服のスカートは許容範囲。ただもし何を着てもいいと言われたらズボンの方がいい。どの学校も私服 OK ならいいと思う。

高校は一度、男子ばかりの学校に入ったが、性別の問題で勉強ができなくなって、1 年で自主退学して今の高校に変えた。英語を勉強したいのと、日本の学校があまり好きじゃなかったのが留学の理由。校則もその理由の一つで、縛りが強かった。

日本の高校では宿泊学習があって、みんなと一緒に風呂に入るのが嫌で、本当は嘘をつきたくないが「生理なので個別でお願いします」と言って避けていた。

みんながもっと性別に色々あることを知っていれば、友だちにも言えるのになあ、聞いてほしいなあと思う。でも友だちには一切話していない。

《事例 3》

- ・現在の年齢と所属：16 歳、定時制高校 2 年生（夜間）
- ・セクシュアリティ：X ジェンダー（※生まれの性別は女性）
- ・校則などでの困難の体験：

性別の違和感は小学校 4 年生頃から。あまり女子と話が合わず、集団行動が苦手だった。席順、名簿など何かと男女を分ける中学校で、制服も校則だから仕方ないと思っていたが、我慢してスカートの下に短パンを履いていた。

中学の頃に女子と馴染めないとか、学校に行きたくないとかの理由で公立高校に行くには出席日数が足りず、私立の専門学校か、定時制か、通信制かという選択肢の中から今の定時制を選んだ。

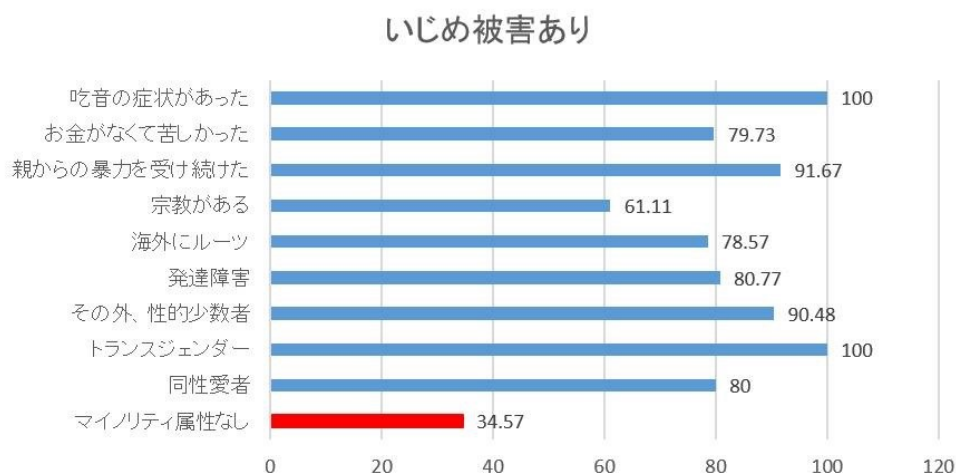
高校は校則がほぼなく、私服で、自分の好きな格好がしたいからありがたい。私服はズボンの方が多い。個人としては制服はなくてもいいんじゃないかと思う。でももし中学の制服にズボンがあればズボンを履きたかった。

2 事例から見えること（限定的だが）

- ・必ずしも校則などに明文化されていない男女分け、性別二元論といった性別の社会規範が、学校の中でもそのまま規範となり、暗黙のルールとして存在している。性別に違和感を抱える生徒は、その規範の中で学校生活全般に困難や苦痛を感じている。
- ・学校での困難のうち、明文化された校則と最も関連があるのが、男女別の制服の強制と、その運用における柔軟性のなさ。

・インタビューした3人のうち2人が、制服や男女分けの学校生活を苦に不登校に。定時制高校を選択した大きな理由が校則・制服がないこと。進学における選択肢が限りなく狭められている。

3 参考資料：マイノリティといじめ（調査A、中学生時）



マイノリティ属性は、いじめ被害リスクを激増させる。

（まとめ）

- ・性自認・性表現に関する学校での困難の背景には、学校現場にも強固に存在する過剰な「男らしさ」「女らしさ」の押しつけ、規範意識がある。
- ・そもそも性の多様性（身体的性別、性自認、性表現、性的指向の考え方など）についての知識がある教師がまだまだ圧倒的に少ないのが現状。性別や性別役割に関する規範意識を柔軟にし、個性を尊重する教育や指導の前提に立ち、さらに性の多様性や性的マイノリティの困難について、知識の啓発が急務だと考える。
- ・性的マイノリティがいじめ被害に遭う、自己肯定感が低い、自殺念慮や自殺率が高いなどの社会課題には、学校での体験や困難が密接に関わっている。

（今後の課題）

- ・上記3事例はたまたま近い属性の当事者となった。生まれの性別が男性である当事者や、Xジェンダーだけでなくトランスジェンダーの現役生徒のインタビューも今後実施したい。

▷用語説明

- ・性自認：自分の性別の認識
- ・性表現：ふるまう性別（例：服装、髪型、一人称や言葉遣いなど）
- ・性的指向：好きになる相手の性別
- ・トランスジェンダー：生まれたときの身体の性別と、自認する性別が一致しない人。
- ・Xジェンダー：性別に違和感があるが、男性から女性へ、女性から男性へという性別移行ではなく、中性、両性（男性でも女性でもある）、無性（男性でも女性でもない）などの性自認を持つ人。